

## 国旗を学級経営に生かす

新潟県 佐渡市立新穂小学校 猪股 快門

## 1 はじめに

私は、小学校の教員を始めて12年目である。小学校の教員になって2年目から、私には続けているルーティーンがある。それは、その日の日直が国旗紹介をするということである。私の学級では、日直が朝の会・帰りの会の司会運営をしている。その帰りの会で、自分が紹介したい国の国旗を紹介している。この取り組みを通して、国旗に興味・関心をもってほしいのはもちろんのこと、クラスで一つの目標を1年かけて達成する喜びを味わってほしいという願いがある。

## 2 実際のやり方

「国旗紹介」といっても、本に書いてある文章を読みあげて終わりということではない。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.62

まず、担任は、四つ切り画用紙を半分にしたものを大量に学級の紙棚に用意しておく。紙は、厚手のものがよい。休み時間などを使い、そ

の国旗用画用紙に日直が地図帳（『楽しく学ぶ小学生の地図帳』）や国旗の本を見て、国旗をカラーペンで描いていくのだ。裏には、『世界の国旗』（成美堂出版：廃刊）や『世界がわかる国旗じてん』（成美堂出版、2016）などで調べ、国名と簡単な国旗のいわれを記入する。自作国旗を帰りの会までに用意しておき、本番は、それを持ちながら紹介する。

## 3 児童のようす

児童に出会った4月、こんな話をする。「先生

のクラスでは、国旗紹介を運動会や修学旅行、遠足を除いた毎日やってもらいます。みんな1年間で何日学校に来るか知っていますか。だいたい200日です。世界の国は、197か国あるから毎日きちんと行くと卒業式（3学期終業式）には、教室が国旗でいっぱいになるよ。」そして、一つつけ加える。「ただし、一つきまりをつくるよ。それは、日本は最後にするということだよ。」

「楽しそう。」という反応をする児童もいるが、「日直になったら面倒くさいな。」とつぶやく児童もいる。また、「えー。いちばん簡単な日本をやりたかったのに！」という声も聞かれる。

そんななかで始まる国旗紹介。はじめは、順調に流れる。これまでほとんどのクラスで、はじめのころに紹介をする国は、フィンランドやインドネシア等の白地に一色の旗、フランスやイタリアなどの白地に二色の旗である。これらは、児童にはそれほど負担にならない。教師の側は、発表させて終わりにはしない。その国についての小話をする。有名な産物や日本とのつながり、私自身のその国の海外旅行体験などの話をする。児童は大変興味をもって話を聞く。また、必要に応じて、地図帳を開かせ位置や絵記号（地図帳掲示）を確認する。例えば、エクアドルにのっている「バナナ」。遠い国が地図帳で身近な国に感じられる瞬間である。そこで、エクアドル産の本物のバナナを見せられたら最高である。児童は国旗にふれ、地図にふれながら、授業だけでは得られない知識を、1学期の間に身につけていく。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.62 エクアドルバナナ

2学期の半ばからしだいに暗雲が立ちこめる。残っている国旗の图案が難しくなってくるのだ。それに加えて、文化祭や音楽発表会、陸上の練習



児童が描いた国旗（教室の後ろに掲示している）



国旗紹介が終わった国にシールを貼る



地図帳を使い国旗をチェックする児童

もあり、児童は休み時間もなくなり動きまわるようになる。国旗など描いている場合ではなくなくなるのだ。そこで、自然発生的に出てくるのが、助け合いの精神である。共同作業で国旗をつくり上げていく姿が見られるようになる。また、あまりよくないのではあるが、国旗を描き上げた児童が、国旗がない児童につくったものを貸す「借旗」（児童の造語）という現象も現れてくる。

このように、国旗づくりを通して、児童がつながり、かかわっていくようすが見られるようになる。また、保護者からも教室に貼られた国旗を見て、「ずいぶん増えましたね。」や「見たこともない国旗があります。うちでもテレビを見ていると国旗の話題になるんですよ。」と話してくれる。

3学期になると、さらに暗雲がたちこめるようになる。紹介していない国の図案が本当に難しい国ばかりになってくるのだ。毎回、だいたい残るのがブータン、トルクメニスタン、アフガニスタン、カザフスタンである。しかし、ここは、けがの巧妙である。難しいところほど、絵が得意な児童や、普段控えめな児童が活躍する場になる。難しい国旗を描き上げるとまわりから「すごいね!」という声があがる。ほめられた児童は、大変うれしそうである。また、それが教室の壁面に飾られるので誇らしげでもある。

さらに、「どの国をやってどの国がまだ描かれていないのか」という新たな問題も発生する。国旗紹介が終わった後には、世界地図にシールを貼り、紹介済みを記録していくのであるが、シールだけ貼って紹介していなかったり、違うところにシールを貼ってしまったりする児童が出てくるのだ。そのため、整理が必要である。そこで、活躍

するのが「地図帳」である。クラスをヨーロッパ班、アジア班、南北アメリカ班、オセアニア班というように分担し、チェックする。地図帳を見ながら国旗のページにチェックを入れていく児童。「あれは、逆さに貼ってあるんじゃないか。先生、裏をチェックして!」「あれ、こんな簡単な国がまだ残っているじゃないか!」などという声が聞こえてくる。地図帳とにらめっこしながら照らし合わせる姿は、とても楽しそうである。

そして、3学期の最終日。6年生であれば卒業式の日「日本」を紹介する。日本を紹介する子どもは、ほんとうに誇らしげである。

#### 4 「国旗紹介」の効果

正直なところ、「描けませんでした」ということで、紹介がストップしてしまう日もある。「こんな状況だったら、もうやめようか?」と問うと「やめない」というのである。児童自身も忙しいけれど、何か楽しいと思えるところや魅力があるのかもしれない。

この1年間の国旗紹介を通して、児童は地理的な力をめきめきつけていることがわかる。以前、国旗紹介をしていたクラスとそうでないクラスを比べたことがあったが、国旗紹介をしていたクラスは、国旗と国名の認知率がひじょうに高かった。

また、普段の会話のなかで、国旗が身近になり、地図が身近になる。そして、学級の結束力も高まる。ぜひ、国旗紹介を学級経営の一つの手法に使ってみてはいかがだろう。